

2019年5月15日

アルコール検知器協議会



【アルコール検知器の測定下限値に関しまして】

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、アルコール検知器協議会に対しまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、アルコール検知器の下限値に関しまして、当協議会としての考え方を取りまとめましたのでご報告いたします。

敬具

<記>

【提言】

「0.05mg/L未満を0.00mg/Lと表示することは協議会としては問題が無いものと判断する」

【理由】

- ・環境要因(温度、湿度、雑ガス、気圧等)、呼気に含まれる不純物等の要因により表示値に影響を及ぼす可能性がある
- ・国際規格である OIML R126(証拠用呼気アルコール分析計)でも最大許容誤差は±0.02mg/Lと規定されている
- ・アルコール検知器協議会として機器の精度は±0.03mg/Lを許容している
- ・飲酒をしていなければ、過去の経験と実績から、0.05mg/L以上になることは考えにくい

(注) 0.05 mg/l未満の場合であっても、目視等で総合的に確認した結果、酒気を帯びていると判断される場合は、この限りではない。

以上